

京都鳥取県友会会報

全国女子駅伝屋台村再開報告

藪内康子

2023年1月15日、第41回全国都道府県対抗女子駅伝がありました。それに伴い屋台村も2年ぶりに再開されました。コロナ前の屋台村では我が県は蟹汁を販売していましたが、今回は全てパック入りの品にするようにと指導がありました。鳥取県関西本部の協力を得て、鳥取県物産協会と境港観光協会に橋渡しして頂き、ご当地特産品とか、土産物を販売することになりました。ラッキョウ漬、乾燥若布、梨ゼリー、鬼太郎どら焼き、蟹みそなどなど。

他の出店県は10店で、コロナ前の半数でした。新しい試みなので各県とも戸惑いがあり、どれくらい売れるかわからず少量しか準備してなくて30分程で売り切れた屋台や、市内の出身者の方の物を順次追加している所ありでした。我が県は品物をたくさん持参して下さり、余ったら持ち帰るということで品切れなく幸いでした。

例年は販売に忙しくて、選手のスタートやゴールを競技場で見る事が出来なかったのですが、今年はゴールも見届け、鳥取県の幟の元で最後まで応援できました。コロナ前は走り終えた選手が屋台村に顔を見せて、蟹汁を食べていましたが、今年はそれもなし。少し残念でしたが、一応コロナ前のように開催されて、すこしずつ日常を取り戻してきてうれしい事です。今年も出店出来てほっとしました。

来年もあります。皆様の応援とご協力をお願いいたします。最後に関西本部の谷川真理子さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

【撮影：藪内・ふるさと連】



【ゴールを目指す最終走者にスタンドで声援を送りました！ 撮影：戸塚】



鳥取県の昔話 民話の部屋より

「因幡の白兔」の話はよく知られていますが、皆さんはこんな話をご存知かなあと思い紹介いたします。

【湖山長者】

昔、因幡の国、今の鳥取県に湖山長者という大層欲深な長者がおったと。長者の田んぼは千町もあって、その田んぼを一日で植えるしきたりだったと。

今日が田植えという日、夜も明けぬ内から広々とした田んぼに数えきれんほどの早乙女たちがずらあつと並んで一斉に植え始める。そりゃあ見事なながめだったと。ところがある年の田植えの日のこと。昼時に一匹の猿が子ザルをさかさまに背負うて山から下りて来た。それを見た早乙女たちが口々にはやしたて始めた。するとどの田の早乙女たちも田植えの手を休めて猿を見ようとした。このありさまに驚いたのは湖山長者だ。長者屋敷の高殿から「何をしているのや、手を休めるな」と大声でどなった。早乙女たちは慌てて田に戻ったが、大勢が一斉に手を休めたものでその日は日暮れになっても千町の田んぼを植え終わることは出来そうになかった。日は、はや、西の山に沈もうとしていた。

「ようし こうなればお天道さんに戻ってもらう

よりしょうないわい。なんの日の出の勢いのこの湖山長者に出けんことあるかい」そういうと、高殿に立ってさっと金の扇を開き、お天道さんを三度大きく招き返したそう。するとどうだ。西の山に沈もうとしていたお天道さんがつつつと糸に引かれるようにもう一度天に戻ったそう。「それこの間に苗を植えろ。」そうしてようやく田植えが終わった時、それに合わせるように日は沈んだと。

次の朝、長者は目を覚ますと、一面に緑の苗にうまった我が田を見ようと高殿へのぼった。のぼってみて驚いた。{あつ}と叫んだまま言葉が出ない。なんと一夜のうちに見渡す限りの田んぼは池になっておった。そして長者屋敷も湖山長者も池に沈んでしもうたそう。

この池を湖山池という。

むかしこっぽり ごんぼの葉。

コロナ禍の中で始めた地元探索

田邊真人

自粛の毎日

3月にはマスクの着用が個人の判断となり、5月には新型コロナウイルスの感染法上の分類も季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられました。それにしても、昨年末までのコロナ禍3年余は、本当に息詰まるような毎日ではなかったでしょうか。

私事で言えば、毎年恒例だった家内との温泉地旅行や、友人たちとの忘年会の自粛は勿論のこと、趣味のキス釣りも、釣り場となる日本海側の海浜(海水浴場)やその駐車場の多くが閉鎖され、釣行を断念せざるを得ず、自粛に次ぐ自粛の3年間でした。加えて鳥取の実家からは、近所の手前、京阪神方面からの帰省厳禁のお達しがあり、只々在住する亀岡に幽閉されたような3年間でした。

地元を目を向ければ

この間、掛かりつけの医者と家内から勧められて始めたウォーキングと家庭菜園は、自粛生活の中での貴重な生活要素の一部となっていました。とは言え、行きたいところへ行けない、やりたいことがやれないという、遣りどころのないもどかしさと欲求不満が積もり続けて、つつい家呑みの酒量も増えつつありました。そんなある日、家内からサイクリングの誘いがありました。「どこにも行けないのだったら、もう少し地元亀岡に目を向けてみない？意外といいところあるかもよ。」

確かに、私自身亀岡在住30数年になるものの、勤務先のあった京都市に対し、亀岡市は単に寝る場所的な意識が強く、あまりにも地元亀岡に対し無知・無関心だったことは否めません。

こうして家内の一言で始めた我が家のサイクリングも2年になりました。もっともサイクリングと言っても家庭用自転車でのトコトコ走行ですが…。

地図と観光案内書を手に訪ねた場所もそここの数になりました。西国21番札所「穴太寺(あなおじ)」、源氏ゆかりの「神蔵寺」、桔梗の咲き誇る通称光秀寺「谷性寺(こくしょうじ)」、口丹波最大の前方後円墳「車塚古墳」、亀岡随一の桜の名所「七谷川桜公園」等々。亀岡の自然や歴史、文化に触れる大きな契機になりました。

そこで今回は、訪ねたサイクリング先の中から、歴史ロマンを感じる一番のおすすめスポットをご紹介します。

出雲大神宮

亀岡市の北東部に「出雲大神宮」という神社があります。

この出雲大神宮、吉田兼好の「徒然草」第二三六段に登場します。

「丹波に出雲と云ふところあり 大社を移してめでたく造れり(丹波国に出雲という所がある。出雲大社に倣って立派に造営した)」で始まる説話で、中学・高校の教科書にも載り、私も高校(鳥取東高)の古文の授業で学んだ記憶があります。

説話自体は、「都から来た上人の一行が丹波の出雲神社に参拝した折、拝殿前の狛犬が背中合わせになっていたため、きっと深い謂れがあるだろうと感動し、神官に尋ねたところ、神官は近所の子供の悪戯であると言いながら狛犬の向きを元に戻して立ち去っていった」という短いものですが、妙に記憶に残って

います。

さて、出雲大神宮は、丹波国一之宮、主祭神は「大国主命(おおくにぬしのみこと。だいこくさまでおなじみですね)」とその后神「三穗津姫命(みほつひめのみこと)」。大国主命には複数の妻と多くの子供がいらしたようですが、三穗津姫命は大国主命が国譲りの際、最後に迎え入れた奥様とのこと。ちなみに、島根の「出雲大社」は大国主命が主祭神ですが、ここ亀岡の出雲大神宮ではご夫婦を主祭神にしています。

縁結びで有名な出雲大社と同じ大国主命を祀る出雲大神宮。后神をも祀っていることから、縁結びにかなりのご利益があるとされ、コロナ禍前は良縁を求める参拝客が絶えなかったそうです。

亀岡になぜ出雲が

さて、私自身、亀岡の出雲大神宮は島根の出雲大社からの分社(分院?)だと、単純に思い込んでいました。徒然草の文面も「大社を移して造れり」ですしね。しかし、出雲大神宮の「社伝」では逆に、元明天皇和銅年中(708年~715年)に、出雲大神宮から島根の「杵築大社」(明治以降の呼称が「出雲大社」)に大国主命を分霊したとして、本来の出雲はこの地であり、この地こそ「元出雲」としてしています。

社伝を知った時は本当に驚きました。ただその根拠とする「丹波国風土記」逸文自体が不詳であり、ただの一主張になっているのは残念ですが。

亀岡は霧深いことで有名です。霧の雲海が山々の間にたなびく様子から、この地を八雲たつ雲わき出づる地と捉えた古人がいたかもしれませんね。

また、亀岡の伝承に、「大国主命が太古広大な湖だった亀岡盆地を干拓するために、亀岡と嵐山の間にある溪谷を切り開いて水を流した。この溪谷と川を妻の三穗津姫の名にちなみ、「保津峡」「保津川」と名付けた」という話があります。

在住する亀岡がかつては出雲だった？島根の出雲大社の方が分社？？あの因幡の白兔のだいこくさまが亀岡を干拓してくれた？？？想像を絶する歴史ロマンですね。

出雲大神宮を紹介しました。本殿背後には御神体である御影山が迫り、山中を含めて境内をゆっくり散策できます。途中いくつかの磐座(いわくら)があり、パワースポットとして有名です。四季折々の景観を楽しめますが、とりわけ秋は御影山の黄葉が絶景。

無料の駐車場もあります。よろしければ是非どうぞ。



今年度の予定

6月4日(日) 春の総会・懇親会

12月24日(日) 全国高校駅伝

8月26日(土) 鳥取県ファンの集い in 関西

1月14日(日) 全国都道府県女子駅伝

10月14日(土) 招魂祭・秋の懇親会

京都鳥取県友会総会・懇親会の開催

令和5年6月4日(日曜日)、ホテルグランヴィア京都において、京都鳥取県友会春季総会・懇親会を開催しました。当日の出席者は22名でした。

佐伯会長の挨拶から始まり、来賓としてご出席いただいた鳥取県関西本部本部・高務本部長、鳥取県岩美町・長戸町長にご挨拶に続き、議案の審議も無事に済ませて総会を終了しました。

総会に続く懇親会では、久しぶりに会った仲間との会話が弾み、美味しい食事と故郷・鳥取の日本酒を頂きながら楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



左上より 堀尾幹事、藪内様、前原様、光井様、森本様、谷田様、瀧川様、平岩様
中段 戸塚様、横川様、田辺様、加藤副会長、長戸様、多賀様、北村様
左下 谷川様、浜本様、松本様、佐伯会長、高務様、稲葉様、尾崎様



佐伯会長 開会のご挨拶



長戸町長 御来賓の挨拶



最後は参加者全員でふるさとと貝殻節の大合唱